

令和6年度【放課後等デイサービス】 自己評価アンケートまとめ

職員による自己評価

活動スペースの広さは十分にあるが、放デイの人数が多く占めているため、二つの部屋のうち広いほうの部屋を主に使っている。一人ひとりの児童に対応可能な職員配置はできているが、児童の年齢が上がり男性職員のニーズが高まっているとともに、児童の特性に対応する際やマンツーマンの支援が行き届かない際に課題が生じている。虐待防止研修や事業所で必要な事案は全員の職員が研修を行い、情報共有している。非常勤職員を含む全員の職員で会議を行うことができた。しかしながら非常勤職員に児童の支援に必要な情報を届ける努力を続ける必要がある。児童に幅広い活動を提供するため、書面にて各家庭のご意向を伺い、実費負担での余暇活動も取り入れている。

保護者による評価

18名の回答をいただいた。活動等のスペースにおいて、活動中に見学したことがないので分からないというご意見や男性職員を増やしてほしいというご意見があった。送迎では常に職員を2人体制にしてほしい、アプリを導入してほしいと望まれる方や、玄関が施錠されておらず防犯面で心配という声があがっている。(同法人内の他事業所のご利用者、職員もトイレ等を使用するため、施錠していない。)定期的に発行しているおたよりを、保護者も子どもたちも喜んでくださっている。4年ぶりに保護者同士の交流の機会としてお祭りが開催され、たくさんの方にお越しいただいた。通所を楽しみにしているお子さんが大半だが、デイ自体に通所したくないお子さんも少数いらっしゃる。



事業所内での分析

緊急時対応マニュアル等を面談でご覧いただき、今年度は周知・説明にご理解が進んだ。支援に対しては、概ね満足していただいているが、職員体制なども含め保護者から見えにくい部分についてご理解を得られるための努力が必要である。送迎は児童の様子により2人体制で行うこともしているので、安心感を持っていただけるようにしていきたい。その他、事業所の対応等のご意見について真摯に受け止め、その時にできる最善を考えていきたい。非常勤職員についても情報共有や支援のポイントについての打ち合わせの時間確保の努力が必要である。

事業所の強み

様々な特性を持った児童が過ごすために作った施設なので、過ごしやすい環境である。近隣の公園等の資源を利用することが多いが、法人で広場を保有しており、のびのびと体を動かすことができる環境である。動物と触れ合うこともできる。一人ひとりの児童に合った生活面、コミュニケーション力、遊び、宿題等の支援を行っている。活動プログラムについては基本的なタイムテーブルはあるが、その時々状況に合わせて合わせるために固定したものはあまり作らず、子どもの「やりたい」を尊重する支援を取り入れることができている。職員の勤続年数が長くなり、児童の状況に合わせた適切な支援を行う協力体制が築きやすく風通しの良い環境である。

事業所の改善点

多機能型施設であり、児童発達支援と放課後等デイサービスのそれぞれの計画、特性や年齢に応じた課題プログラムの計画が幅広く、難しさがある。特に学校の長期休みのプログラム計画では、児童発達支援と放課後等デイサービスのご利用時間が異なり、打ち合わせや活動プログラム作りの時間確保に困難が生じている。

事業所の改善への取り組み

保護者の皆様へ、おたよりや面談、ホームページ、日々のコミュニケーションなどを通し、業務に関する情報を丁寧に発信していく。保護者との考え方の行き違いや必要なことのお伝えが十分にできなかったときは、しっかりと取り組んでいく。緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを全職員にも周知・説明を図っていく。風通しの良い職場の風土を保ち、児童に温かい支援を提供していく。